

豊田市美術館

2026 年度、豊田市美術館では下記の展覧会を開催する予定です。春は愛知を拠点に画家・教育者として活躍してきた櫃田伸也の個展、夏にはアメリカの国民的画家として知られるアンドリュー・ワイエスの展覧会、秋には現代版画家・井田照一の没後20年記念展と、常に新たなイメージを紡ぎだす注目作家・長谷川繁の展覧会、年明けには、新進気鋭の若手作家によるグループ展の開催を予定しています。

櫃田伸也—通り過ぎた風景

2026年4月4日[土]—6月21日[日] 主催：豊田市美術館 協力：KAYOKOYUKI



櫃田伸也《箱》2003–2019年 油彩、マスキングテープ、カンヴァス 豊田市美術館所蔵

愛知県立芸術大学で長く教鞭をとった画家・櫃田伸也(1941-)の個展。奈良美智ら現代美術作家として活躍する教え子を多く輩出したことでも知られるが、本展では画家としての櫃田に焦点をあて、1960年代の初期作品から、1970年代にはじまる風景を主題とした絵画、2026年作の最新作まで作品約120点を初出の資料などを交えて紹介する大規模回顧展です。

アンドリュー・ワイエス展

2026年7月18日[土]—9月23日[水・祝] 主催：豊田市美術館 共催：中日新聞社 後援：東海テレビ放送



アンドリュー・ワイエス《クリスティーナ・オルソン》1947年 テンペラ、パネル マイロン・クニン・コレクション、ミネアポリス(米国)

風景や人々を、深い精神性を宿したリアリズムによって描き、アメリカの国民的画家として知られるアンドリュー・ワイエス(1917 - 2009)。日本では17年ぶりの展覧会となる本展では、作品に数多く登場する窓や扉といった「境界」を暗示する表現に光を当てながらワイエスの芸術世界を紹介します。

出品点数：約100点

巡回先：東京都美術館 4/28-7/5、あべのハルカス美術館 10/3-12/6



豊田市美術館

(仮)井田照一展

2026年10月24日[土]ー2027年1月24日[日] 主催:豊田市美術館



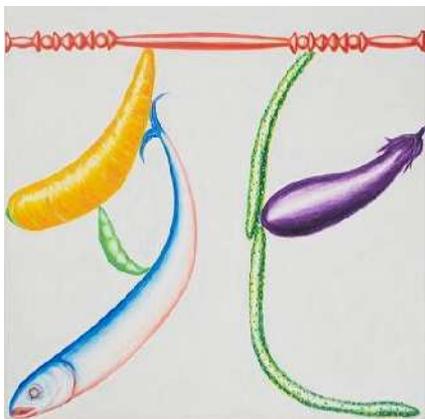
井田照一《Start》1967年、リトグラフ、紙、豊田市美術館蔵

現代版画作家として特異な位置を占める井田照一(1941-2006)。没後20年を記念し、版画作品に加え、作家スタジオから寄贈された作品(立体、陶、ミクストメディア等)やライフワークともいえる《Tantra》ほか収蔵品を中心に他館所蔵作品を交えて作家の歩みを振り返ります。

当館では2004年の「井田照一 版画の思考」展以来22年ぶりの展覧会となります。

(仮)長谷川繁 ペイン天狗

2026年10月24日[土]ー2027年1月24日[日] 主催:豊田市美術館



長谷川繁《死ゲル》2021年 油彩、綿布 豊田市美術館蔵

長谷川繁(1963-)は、愛知県立芸術大学大学院を卒業後、ドイツ、オランダに身を置き、日本人である自分が、西欧由来の「絵画」を描くことの意味を問い、「できること」を真摯に追求するなかで自分の絵を確立しました。ユーモアと毒を含んだ作品は、見る人の感情を刺激し、一方で内側から発光するような画面は、「絵」として見るべき魅力にあふれています。

本展では、旧作から新作まで一堂に展示し、長谷川が選んだ当館コレクションとの組み合わせによる展示も行います。

(仮)春と云々

2027年2月27日[土]ー5月30日[日] 主催:豊田市美術館



光岡幸一《その後のあつちとこつち》2020年

タイトルは、旅と仮住まいを繰り返した俳人・松尾芭蕉の句からきています。この展覧会では、気鋭の若手作家を招き、インスタレーション作品を中心に私たちの生活の場であるまちや住まい、あるいは旅することについて、作品を介して見つめなおします。